

当上半期の業績について

当第2四半期連結累計期間は、新型コロナウイルスの感染拡大はあったものの、景気の回復基調や社会環境の変化を受け、モバイルスペースの需要は引き続き高く、業績は堅調に推移しました。売上高は25,585百万円(前期同期比11.6%増)、営業利益は5,301百万円(前期同期比41.0%増)、経常利益は5,521百万円(前年同期比46.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,318百万円(前年同期比45.2%増)となり、売上高、利益額ともに前年を上回る結果となりました。

モバイルスペースのレンタルについては、建設現場事務所など大手ゼネコンや建設関連会社への出荷棟数は前年と同程度となりましたが、本建築の建物をレンタルする本設レンタルについては、出荷棟数および売上高が前年に比べ大幅に増加いたしました。東京オリンピック・パラリンピックの影響だけでなく、官公庁関連の案件や既存建物の建て替え時の利用が増加しており、これらの結果、レンタルの連結売上高は前年同期比12.3%増となりました。

モバイルスペースの販売については、生活環境やビジネス環境の変化に伴い、ホームページからのお問い合わせや展示場のご来場者が全ての月で前年同月を上回るなど、非常に高い需要が続いております。ホームオフィスなど働き方の変化に対応した案件や、事務所や店舗といった事業用途のニーズも高く、また、新型コロナウイルスのワクチン接種会場など医療関連の案件も多数提供させて頂いております。これにより、販売の連結売上高は前年同期比12.2%増となりました。

トランクルームのレンタルについても継続して事業拡大と稼働率向上に向け活動しており、連結売上高は前年同期比5.0%増となりました。レンタルスペース店舗も開設を進めており、当第2四半期連結累計期間は6店舗を新規に開設しております。



建設現場事務所



ワクチン接種会場内観



会社事務所



物販店舗内観

供給体制については、既存工場において生産設備の入れ替えや増強を行うとともに、岐阜県可児市に新規工場の建設を進めており、供給能力と生産品質を向上させるべく取り組んでおります。

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,060百万円増加し、66,389百万円となりました。変動の大きかった主なものは、現金及び預金の増加1,855百万円、営業未収入金や電子記録債権等の債権の増加322百万円です。負債の合計額は前連結会計年度末に比べ85百万円増加し24,838百万円、純資産の合計額は前連結会計年度末に比べ1,974百万円増加し41,550百万円となりました。自己資本比率は62.6%となっており、健全な財務状況を保っております。



飲食販売店



地域交流拠点施設

施工例のご紹介 ~ユーザーインタビュー 松茂町交流拠点施設~

地方創成の拠点施設として建設しており、また、南海トラフを震源とする地震による津波で町全体が浸水すると予測されていることから、災害復興拠点として利用することも考えています。

テレビCMを見たことがあり、三協フロンテアの社名は知っていました。今回の施設の設計段階で、工期短縮やコスト削減を検討する中で設計事務所から提案があり、初めて「モバイルスペース」を知りました。国の補助金である地方創成拠点整備交付金も活用し、今年5月にオープンしています。

松茂町では人口が減少に転じ、少子高齢化率も上がっています。何とか町としてPRをしていく必要があるのではないかと、ファブスペースや木工作業場、調理スペース、コワーキングスペース等を設置しました。料理教室やお菓子教室、ものづくり教室など、交流に加えて色々な学びができる点をPRし、人口増加や経済力の底上げを図っていきたいと考えています。



松茂町交流拠点施設内観